



(特非) 大山千枚田保存会

南房総地域における 草地環境の生態系の把握と その多面的機能の普及啓発活動

一般助成

1年目

知識の提供・
普及啓発

観察会形式での
生物調査参加者 1,833人

草地の多面的機能と
文化勉強会参加者 97人

97人

活動の全体目標に
対する達成度

60%

課 題

農村の草地は休耕地の象徴であり、鳥獣被害の元凶とされ、価値が低下している。それらを改善するための活動を行う。草地の新たな価値をみつけ、耕作放棄地を有効活用する。

活動内容

- ①地域の草地環境の生物相の把握。
- ②草地環境の持つ多面的機能の勉強会の開催。
- ③南房総での草地環境を使った文化の勉強とその資源化の検討。
- ④草地の自然環境と地域の暮らしの結び付きを解説した冊子の作成。



作成した冊子「房総の草むら」

今後の課題

地域全体で荒れた草地を有効活用していこうという気運が高まってきた中で、新たな活用の勉強会の充実と、草地活用のための実験区を設置し、草地生態系の保全を充実させていきたい。

成果と工夫した ポイント



成果

1,800名を超える観察会参加者や、100名を超える勉強会参加者を受け入れ、南房総の生物相の豊かさや、草村文化の普及が行えた。草地の課題と今後の草地の活用の方向性について関係団体と共有することができた。

工夫

農家の身近な問題である鳥獣被害の話から始め、草地の多面的機能、草地の再活用の検討へとつながる。